

取扱説明書

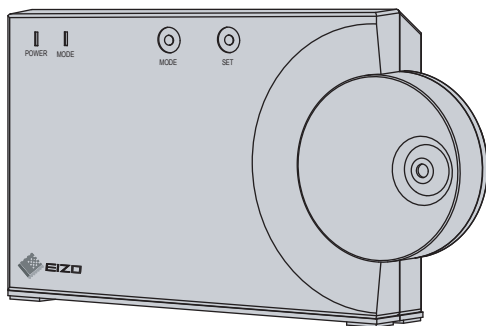
AirView[®]2

3G-324M対応ライブカメラ

重要

ご使用前には必ず取扱説明書をよくお読みになり、
正しくお使いください。

この取扱説明書は大切に保管してください。



絵表示について

本書では以下のような絵表示を使用しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性がある内容、および物的損害のみ発生する可能性がある内容を示しています。

	注意（警告を含む）を促すものです。たとえば  は「感電注意」を示しています。
	禁止の行為を示すものです。たとえば  は「分解禁止」を示しています。
	行為を強制したり指示するものです。たとえば  は「ACアダプタを抜くこと」を示しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

Copyright© 2003 株式会社ナナオ All rights reserved.

1. 本書の著作権は株式会社ナナオに帰属します。本書の一部あるいは全部を株式会社ナナオからの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
4. 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
5. 乱丁本、落丁本の場合はお取り替えいたします。販売店までご連絡ください。

FOMA、Lookwalkは株式会社NTTドコモの登録商標です。

MoppetはNTT東日本・NTT西日本の登録商標です。

AirView、EIZOは株式会社ナナオの登録商標です。

その他の各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

もくじ

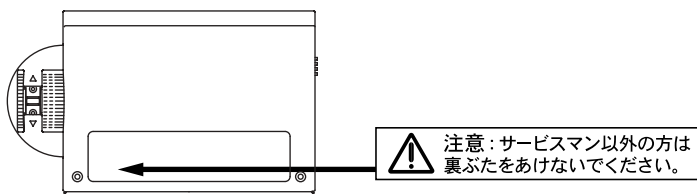
▲使用上の注意	4
1. はじめに	9
1-1. 商品概要	9
1-2. 特徴	9
1-3. 梱包品の確認	10
1-4. 各部の名称と機能	11
2. まずは、使ってみよう！	12
3. ライブカメラの機能を使いこなす（取扱説明書の読み方）	14
4. 基本編	16
4-1. 準備	16
4-2. 接続	17
4-3. 使用方法	18
使用する前に	18
ライブカメラの映像をみる / 音声を聞く	20
携帯電話からライブカメラの設定を変更する	22
ライブカメラの画質を設定する	24
設定を初期設定に戻す	24
5. 応用編	25
5-1. 応用編にすすむ前に	25
5-2. 準備	25
5-3. 接続	26
5-4. 使用方法	28
センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に 電話をかける（自動発呼機能）	28
携帯電話から、ライブカメラに接続したセンサー入力対応 外部機器のオン/オフを切り替える	30
ライブカメラ側で携帯電話からの音声を出力する	31
6. 設置	32
ライブカメラ本体の設置	32
レンズの向きの設定	32
7. 故障かなと思ったら	33
8. お手入れ	35
9. 仕様	36
10. アフターサービス	38

使用上の注意

重要

- 本製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.
- ご使用前には、「使用上の注意」および本体の「警告表示」をよく読み、必ずお守りください。

【警告表示位置】



警告

万一、異常現象（煙、異音、においなど）が発生した場合は、ACアダプタを抜いて販売店またはエイソーサポートに連絡する
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。



製品を分解・改造しない

分解・改造は、火災や感電、故障の原因となります。





警告

修理は販売店またはエイゾーサポートに依頼する

お客様による修理は火災や感電、故障の原因となりますので、絶対におやめください。



使用を禁止された区域（病院など）に設置しない

本製品はカードタイプFOMAを組み合わせるため、植込み型心臓ペースメーカや医療電気機器などに影響を及ぼす場合があります。必ずカードタイプFOMAの取扱説明書の指示に従ってください。



周辺に液体を置かない

本製品内部に液体が入ると、火災や感電、故障の原因となります。万一、本製品内部に液体をこぼした場合には、すぐにACアダプタを抜き、販売店またはエイゾーサポートにご連絡ください。



丈夫で安定した場所に設置する

不安定な場所に設置すると、落下することがあり、けがの原因となります。

万一、落とした場合はACアダプタを抜いて、販売店またはエイゾーサポートにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



次のような場所には設置しない

火災や感電、故障の原因となります。

- * 屋外。
- * 湿気やほこりの多い場所。浴室、水場など。
- * 油煙や湯気が直接当たる場所や熱器具、加湿器の近く。



ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部分（コンセント側）を持つ

コード部分を引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となります。



レンズに太陽の光が進入する状態で放置しない

レンズの集光作用により、火災や故障の原因となります。





警告

次のような誤った電源接続をしない

誤った接続は火災、感電、故障の原因となります。

- * 付属のACアダプタは日本国内AC100V専用品です。
- * 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
- * 付属のACアダプタはAirView専用のもので、他の機器には使用しないでください。



ACアダプタを傷つけない

ACアダプタの本体部分およびコード部分に重いものをのせる、コード部分を引っ張る、束ねて結ぶなどをしないでください。ACアダプタが破損（芯線の露出、断線など）し、火災や感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、ACアダプタやコードには触れない

感電の原因となります。



市販のスタンドや三脚に設置する場合は、それらの取扱説明書の指示に従い、確実に設置する

天吊りや壁面に取り付ける場合は、使用する金具の取扱説明書の指示に従い、確実に設置する



確実に設置されていないと、外れたり、落下してけがや故障の原因となります。万一、落とした場合はACアダプタを抜いて、販売店またはエイゾーサポートにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



注意

濡れた手でACアダプタに触れない

感電の原因となります。



ACアダプタの周囲にものを置かない

火災や感電防止のため、異常が起きた時すぐACアダプタを抜けるようにしておいてください。



ACアダプタ周辺は定期的に掃除する

ほこり、水、油などが付着すると火災の原因となります。



クリーニングの際はACアダプタを抜く

プラグを差したままでおこなうと、感電の原因となります。



その他の注意事項

<携帯電話/カードタイプFOMA（p.9）の料金について>

ライブカメラを利用するには、使用するカードタイプFOMAの契約に応じた月額基本使用料および通信時間に応じた通信料などが必要となります。

● 通信料について

- ー ライブカメラでは通信（映像表示）時に通信時間に応じて課金されるデジタル通信料が適用されます。
- ー 携帯電話より本製品に電話をかけた場合は、携帯電話に通信料が発生します。また、本製品の自動発呼機能（p.28）を使って携帯電話に電話をかけた場合は、ライブカメラに装着しているカードタイプFOMAに通信料が発生します。

<登録した情報内容について>

ライブカメラに登録した情報内容は、別にメモを取るなどして保管してください。万一、登録した情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

<ライブカメラの営利目的での使用について>

ライブカメラはMPEG-4技術を使用しています。ライブカメラを営利目的で使用する場合、MPEG-4技術に関わるライセンス費用などが発生する場合があります。

<ライブカメラの利用について>

ライブカメラを利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などをおこなった場合、法律、条例（迷惑防止条例など）に従い処罰されることがあります。

ライブカメラを利用して画像送信を行う際は、プライバシー等にご配慮ください。

1. はじめに

このたびは、AirViewをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1-1. 商品概要

本製品は、カードタイプFOMAを組み合わせることで、携帯電話へ映像や音声を手軽に送信することができます。

本製品で利用できるカードタイプFOMA、携帯電話は以下のとおりです。
(これらの製品の購入については販売店にお問い合わせください。)

- ☐ カードタイプFOMA
 - NTT DoCoMo テレビ電話対応PCカード一体型FOMA
- ☐ 携帯電話 (3G-324M対応機種)
 - NTT DoCoMo テレビ電話対応FOMA
 - NTT DoCoMo PHS Lookwalk
 - NTT 西日本/東日本 ISDNテレビ電話 Moppet

※本製品に関する最新情報についてはEIZOホームページ
(<http://www.eizo.co.jp/>) を参照してください。

1-2. 特徴

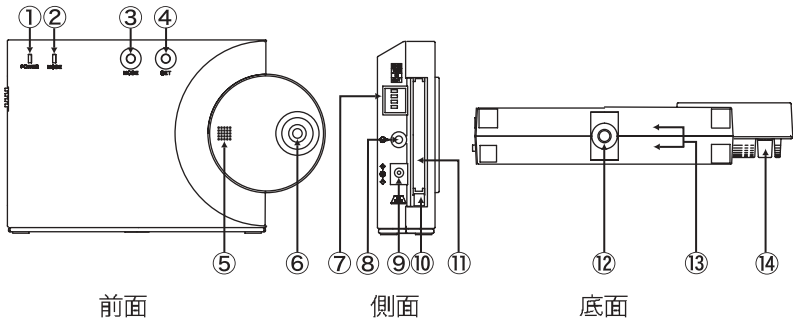
- ACアダプタをつなぐだけの簡単接続
- ボタンを押すだけの簡単設定
 - ー ライブカメラに接続する携帯電話を制限できます
(着信制限モード、p.18)
 - ー 携帯電話からライブカメラの設定変更ができます (p.22)
- 外部センサー入出力に対応
 - ー センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に電話をかける
ことができます (自動発呼機能、p.28)
 - ー 携帯電話からライブカメラに接続したセンサー入力対応外部機器 (例：
センサー入力対応ライト) のオン/オフを切り替えることができます
(p.30)

1-3. 梱包品の確認

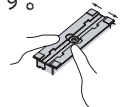
以下のものがすべて入っているか確認してください。万一、不足しているものや破損しているものがある場合は、販売店またはエイゾーサポートにご連絡ください。

- AirView本体
- ACアダプタ（コードの長さ：3m）
- 取扱説明書
- 保証書

1-4. 各部の名称と機能



- ①  (POWERランプ) : 発信状態を示します。 ※¹
- ②  (MODEランプ) : 着信状態および通話中を示します。 ※¹
- ③  (MODEボタン) : 各種設定をおこなうときに使用します。
- ④  (SETボタン) : 各種設定をおこなうときに使用します。
- ⑤ マイク
- ⑥ レンズ
- ⑦ センサー入出力コネクタ: センサー/スイッチまたはセンサー入力対応外部機器を接続します。
- ⑧ オーディオミニジャック: アンプ内蔵スピーカーを接続します。
- ⑨ 電源ジャック: ACアダプタを接続します。
- ⑩ EJECTボタン: カードタイプFOMAを取り出すときに使用します。
- ⑪ PCカードスロット: カードタイプFOMAを挿入します。
- ⑫ スタンド取付穴: スタンドや三脚などを取り付けます。
- ⑬ スライドスタンド: 台などに置く場合に、開いて設置します。
(p.32)



- ⑭ レバー: レンズの向きを調整します。 (p.32)



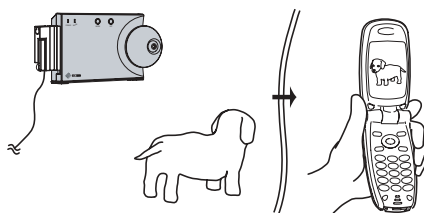
※¹ 各ランプの状態によって、ライブカメラの状態を判別できます。

	赤色点滅	赤色点灯	緑色点灯	オレンジ色点灯
 (POWERランプ)	ライブカメラ エラー	---	自動発呼機能 オン	自動発呼機能 オフ
 (MODEランプ)	ライブカメラ エラー	通信中	待受状態 着信制限モード	待受状態 着信非制限モード

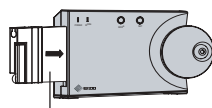
2. まずは、使ってみよう！

携帯電話からライブカメラの映像を見る/音声を聞くには

ここでは、ライブカメラの基本的な機能について簡単に説明しています。詳しくはp.16を参照してください。



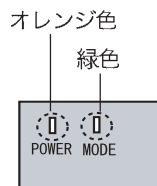
- 1 カードタイプFOMAをPCカードスロットに挿入します。



カードタイプFOMA

- 2 付属のACアダプタを電源ジャックと電源コンセントに接続します。

約15秒後、ライブカメラが待受状態（ POWERランプ：オレンジ色点灯/ MODEランプ：緑色点灯）になります。



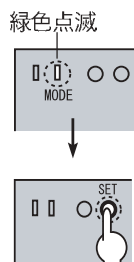
- 3 携帯電話の発信者番号通知設定を「通知設定」にしてカードタイプFOMAに「テレビ電話」をかけます。（「テレビ電話」は通常の「音声通話」と、かけ方が異なります。）



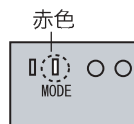
電話をかける際は、以下の点に注意してください。

- 発信者番号通知設定を「通知設定」にする
 - 「テレビ電話」をかける
- 「通知設定」の設定方法、「テレビ電話」のかけかたについては、携帯電話の取扱説明書を参照してください。

- 4 ライブカメラが電話を着信したら（MODEランプ：緑色点滅（約10秒間））、SETボタンを押します。ライブカメラに電話番号が登録されます。



- 5 通信が開始され（MODEランプ：赤色点灯）、携帯電話でライブカメラの映像を見る/音声聞くことができます。



通信（映像表示）を終了するときは、電話を切ってください。

注意点

- 一度電話番号を登録すると、次回からは手順4のSETボタンを押す必要はありません。電話をかけるだけで通信できます。
- 上記は、ライブカメラの着信設定が制限モード（通信できる携帯電話を制限する）の場合の方法です。この場合、登録していない電話番号の携帯電話からは、ライブカメラと通信できません。ライブカメラが電話を着信している間に、SETボタンを押し電話番号を登録してください。

3. ライブカメラの機能を使いこなす

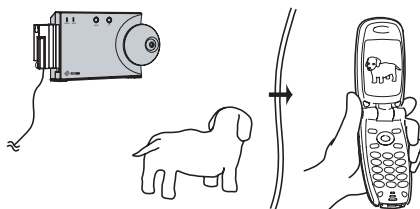
(取扱説明書の読み方)

本書は、ライブカメラの機能を「基本」と「応用」に分けて説明しています。使う目的に合わせて、基本編・応用編を参照してください。

基本編 (=>p.16)

基本構成（ライブカメラ・カードタイプFOMA・携帯電話）のみで使える以下の機能について説明しています。

- 携帯電話からライブカメラの映像をみる/音声を聞く



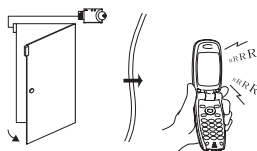
- 携帯電話からライブカメラの設定を変更する
- ライブカメラの画質を設定する
- ライブカメラの設定を初期設定に戻す

ライブカメラの設置方法については、p.32を参照してください。

応用編 (=>p.25)

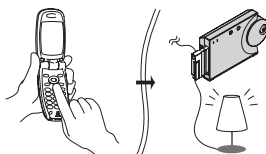
基本構成のほかに外部機器を利用することによって使える機能について説明しています。

- センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に電話をかける

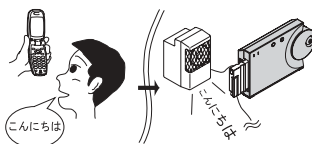


[例]
ドアが開くと電話がかかる

- 携帯電話から、ライブカメラに接続したセンサー入力対応外部機器のオン/オフを切り替える



- ライブカメラ側で携帯電話からの音声を入力する



ライブカメラの設置方法については、 p.32を参照してください。

4. 基本編

ここでは、以下の機能の使いかたについて説明しています。

- 携帯電話からライブカメラの映像をみる/音声を聞く
- 携帯電話からライブカメラの設定を変更する
- ライブカメラの画質を設定する
- ライブカメラの設定を初期設定に戻す

4-1. 準備

はじめに、以下の機器を準備してください。

- 本製品
- カードタイプFOMA^{※1}
- 携帯電話^{※1}

^{※1} 本製品で利用できるカードタイプFOMA、携帯電話は以下のとおりです。
(これらの製品の購入については販売店にお問い合わせください。)

- ☐ カードタイプFOMA
 - NTT DoCoMo テレビ電話対応PCカード一体型FOMA
- ☐ 携帯電話 (3G-324M対応機種)
 - NTT DoCoMo テレビ電話対応FOMA
 - NTT DoCoMo PHS Lookwalk
 - NTT 西日本/東日本 ISDNテレビ電話 Moppet

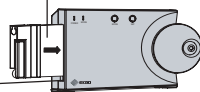
4-2. 接続

各機器を接続します。

- 1** カードタイプFOMAをPCカードスロットに奥までしっかりと挿入します。

参考

EJECTボタン



- CFカードサイズのカードタイプFOMAを使用する場合、カードに付属またはオプションのPCカードアダプタを使用してください。（PCカードアダプタの使用方法についてはカードタイプFOMAの取扱説明書を参照してください。）

- 2** 付属のACアダプタを電源ジャックに接続し、その後、電源コンセントに接続します。



警告

次のような誤った電源接続をしない

誤った接続は火災、感電、故障の原因となります。

- 付属のACアダプタは日本国内AC100V専用品です。
 - 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
 - 付属のACアダプタはAirView専用のものです。
- 他の機器には使用しないでください。

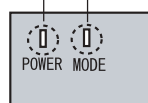


電源を投入してから約15秒後、ライブカメラが待受状態（ POWERランプ：オレンジ色点灯/ MODEランプ：緑色点灯）になります。

（POWERランプ）が赤色に点滅した場合は、「故障かなと思ったら」（p.33）を参照してください。

オレンジ色

緑色



注意点

- 携帯電話と通信中やライブカメラ本体のボタン操作中にライブカメラの電源を切らないでください。
- カードタイプFOMAを取り出すときは、以下の手順に従ってください。
 1. ACアダプタを電源コンセントから外します。
 2. ライブカメラの電源が切れていることを確認します。
 3. EJECTボタンを押します。

4-3. 使用方法

使用する前に

ライブカメラ側および携帯電話側でそれぞれ以下の設定をおこなってください。

1 ライブカメラの着信設定をします。

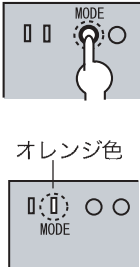
- ライブカメラの着信設定には2通りあります。

着信設定		MODE (MODEランプ)
着信制限モード	許可した電話番号の携帯電話からのみ、ライブカメラの映像をみることができる	緑色
着信非制限モード	すべての携帯電話からライブカメラの映像をみることができる	オレンジ色

初期設定（工場出荷状態）では、ライブカメラは着信制限モードに設定されています。

<着信非制限モードで使用する場合>

- (1) ライブカメラが待受状態のときに、MODE (MODEボタン) を3秒以上押します。
- (2) MODE (MODEランプ) がオレンジ色に変わり、着信非制限モードに設定されます。



注意点

- 着信制限モードに戻すときは、再度 MODE (MODEボタン) を3秒以上押します。MODE (MODEランプ) が緑色に変わり、着信制限モードに設定されます。

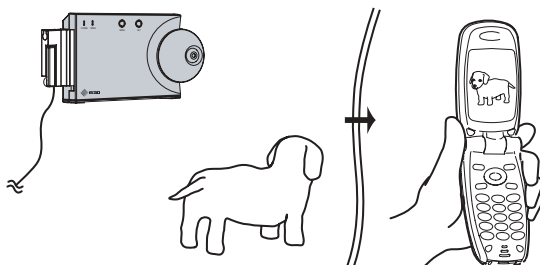
2 ライブカメラを「着信制限モード」に設定した場合は、携帯電話の発信者番号通知設定を「通知設定」にします。

設定方法については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。

注意点

- ライブカメラが「着信制限モード」に設定されているときは、必ず発信者番号通知設定を「通知設定」にしてください。「非通知設定」で電話をかけると着信できません。

ライブカメラの映像をみる/音声を聞く



ライブカメラの着信設定が「着信制限モード」の場合

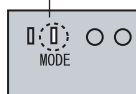
- 1 携帯電話からカードタイプFOMAに「テレビ電話」をかけます。（「テレビ電話」は通常の「音声通話」と、かけ方が異なります。）

「テレビ電話」のかけかたについては、携帯電話の取扱説明書を参照してください。



- 2 ライブカメラの  (MODEランプ) が緑色点滅に変わり、電話を着信します。

緑色点滅

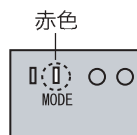


- 3 緑色に点滅している間（約10秒間）に  (SETボタン) を押すと、電話番号が登録されます。



4 ライブカメラのMODEランプ (MODEランプ) が赤色点灯に変わり、通信が開始されます。

携帯電話にライブカメラの映像が表示されます。
通信 (映像表示) を終了するときは、電話を切ってください。



注意点

- 一度電話番号を登録した後は、携帯電話からカードタイプFOMAにテレビ電話をかけるだけで通信することができます。
- 電話番号は50件まで登録できます。登録が50件を超えると、新たに電話番号を登録することができません。次に新しい電話番号を登録するときは、ライブカメラの設定を初期設定に戻してください (p.24参照)。

ライブカメラの着信設定が「着信非制限モード」の場合

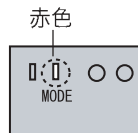
1 携帯電話からカードタイプFOMAに「テレビ電話」をかけます。（「テレビ電話」は通常の「音声通話」と、かけ方が異なります。）

「テレビ電話」のかけかたについては、携帯電話の取扱説明書を参照してください。



2 ライブカメラのMODEランプ (MODEランプ) が赤色点灯に変わり、通信が開始されます。

携帯電話にライブカメラの映像が表示されます。
通信 (映像表示) を終了するときは、電話を切ってください。



携帯電話からライブカメラの設定を変更する

マイク感度、露出モード、倒立/鏡像モードの設定が変更できます。

設定方法

＜携帯電話がDTMF送信機能を搭載している場合＞

（DTMF送信機能については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。）

通信（映像表示）中に、携帯電話のダイヤルボタン（次ページの表参照）を組み合わせて押し、DTMF送信することでライブカメラの設定ができます。

＜携帯電話がDTMF送信機能を搭載していない場合＞

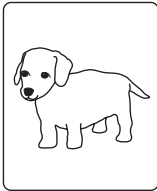
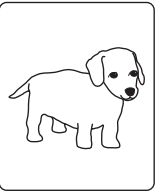
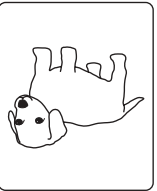
通信（映像表示）中に、携帯電話のダイヤルボタン（次ページの表参照）を直接押すことでライブカメラの設定ができます。

注意点

- DTMF送信機能を搭載していない場合、携帯電話側で以下の設定をしておいてください。（各設定方法については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。）
 - － ハンズフリー（スピーカーから音声を聞く）に設定してください。
 - － ボタン確認音（ボタンを押したときの音）が鳴るように設定してください。
- 携帯電話またはライブカメラの周辺が騒がしい場合、設定が変更できないことがあります。

ライブカメラの設定		ダイヤルボタンの組み合わせ
マイク感度：	ミュート（消音）	*11
マイクの感度を設定します [初期設定：通常]	通常	*12
	高感度	*13
露出モード：	全画面平均	*21
画像をはっきりさせる領域を設定 します（全体・中央） [初期設定：全画面平均]	スポット	*22
倒立/鏡像モード：	正立・倒立切替	*31
画像の向きを設定します（下記参 照） [初期設定：正立/鏡像オフ]	鏡像オン	*32
	鏡像オフ	*33

倒立/鏡像モード設定時の携帯電話の画面

正立・鏡像オフ (初期設定)	倒立・鏡像オフ	正立・鏡像オン	倒立・鏡像オン
[例] 			

設定確認音について

携帯電話からおこなった設定結果を音で確認することができます。

設定の変更にDTMF送信機能を使用している場合は、携帯電話をハンズフリー設定にしておいてください。

- ライブカメラの設定が完了すると、「ピーー」という音がします。
- ライブカメラの設定が変更できなかった場合は、「ピッピー」という音がするので、再度設定してください。

ライブカメラの画質を設定する

通信（映像表示）中に携帯電話の画像品質設定機能を使って、下記の設定ができます。（画像品質設定機能については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。）

標準	画質、動きを標準で表示します
画質優先	画質を重視して表示します
動き優先	動きを重視して表示します

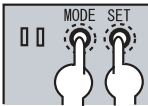
参考

- ライブカメラの画質は、携帯電話の画像品質設定に連動して設定されます。
- この設定は画像品質を通信中に設定できる場合にのみ有効です。

設定を初期設定に戻す

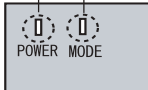
ライブカメラの設定をすべて初期設定（工場出荷状態、p.37参照）に戻します。（登録した電話番号もすべて消去されてしまいますのでご注意ください。）

- 1 ライブカメラが待受状態のときに、
○（MODEボタン）と○（SETボタン）を同時に3秒以上押します。



- 2 （POWERランプ）がオレンジ色、
（MODEランプ）がいったん赤色になった
あと緑色になり、ライブカメラが初期設定に戻ります。

赤色になってから緑色
オレンジ色



5. 応用編

ここでは、以下の機能の使いかたについて説明しています。

- センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に電話をかける（自動発呼機能）
- 携帯電話から、ライブカメラに接続したセンサー入力対応外部機器のオン/オフを切り替える
- ライブカメラ側で携帯電話からの音声を出力する

5-1. 応用編にすすむ前に

応用編にすすむ前に、必ず「4. 基本編」を参照し、以下をおこなってください。

- 必要なものを確認する（「4-1. 準備」 p.16参照）
- 各機器を接続する（「4-2. 接続」 p.17参照）
- ライブカメラおよび電話端末の設定をする（「4-3. 使用方法 使用する前に」 p.18参照）

5-2. 準備

使用する機能に応じて必要な外部機器を準備してください。

使用可能な外部機器に関する情報については、EIZOホームページ（<http://www.eizo.co.jp/>）を参照してください。

- センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に電話をかける場合
— ON/OFF型のセンサーまたはスイッチ（市販品）
- 携帯電話から、ライブカメラに接続したセンサー入力対応外部機器のオン/オフを切り替える場合
— センサー入力対応外部機器（例：センサー入力対応ライト）
- ライブカメラ側で携帯電話からの音声を出力する場合
— アンプ内蔵スピーカー（市販品）

5-3. 接続

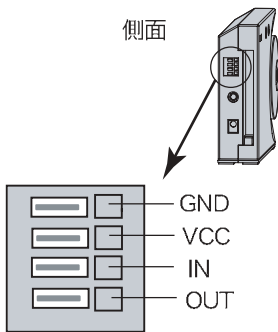
外部機器を各コネクタに接続します。

- センサー/スイッチ、またはセンサー入力対応外部機器は、センサー入出力コネクタに接続します。（以下参照）
- スピーカーは、オーディオミニジャックに接続します。

センサー/スイッチまたはセンサー入力対応外部機器を接続する場合

センサー入出力コネクタについて

＜各ピンの機能＞



ピン	機能
GND	GND
VCC	DC電源出力 ・ DC5V±5% ・ 電源出力電流：最大100mA
IN	デジタル入力端子 接続する機器側の端子の仕様が 無電圧接点出力でDC5V/1mA 以上の耐圧/容量を備えている こと
OUT	デジタル出力端子 (オープンコレクタ出力) ・ 最大印加電圧：DC5V±5% ・ 電流：最大100mA

＜コネクタケーブルの仕様＞

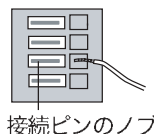
電線タイプ	28～22AWG
被覆を剥ぐ長さ	9～10mm

＜センサー/スイッチの配線条件＞

配線長	片道100m以下
配線回路抵抗	100Ω以下

<コネクタケーブルの接続方法>

取り付け： マイナスドライバーなどを使って、接続ピンのノブを押しながら、先端部の被覆を剥いだケーブルを差し込みます。



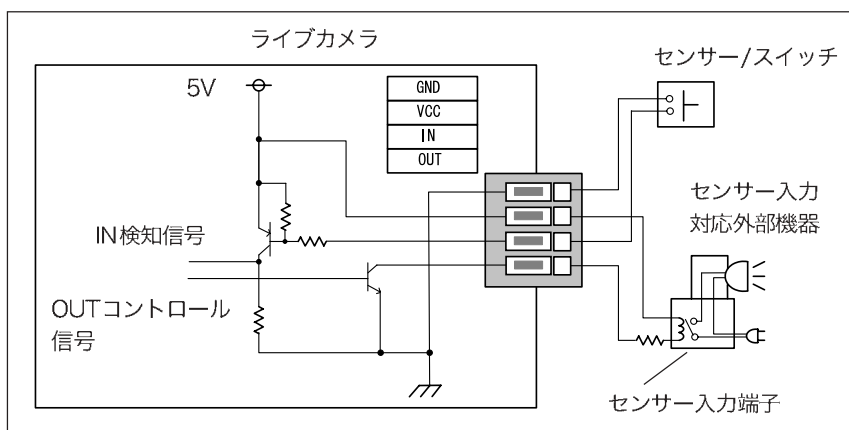
接続する機器	接続ピン
センサーまたはスイッチ	GNDとIN
センサー入力対応外部機器	VCCとOUT

取り外し： ノブを押しながら、ケーブルを手前に引っ張り、取り外します。

注意点

- GNDピンとVCCピンはショートさせないでください。ライブカメラの電源がショートして、ライブカメラが故障することがあります。

<センサー/スイッチ・センサー入力対応外部機器の接続例>



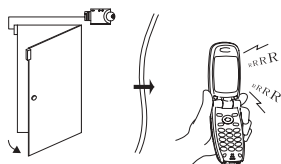
参考

- センサー/スイッチまたはセンサー入力対応外部機器の使用方法については、使用するセンサー/スイッチまたはセンサー入力対応外部機器の取扱説明書を参照してください。

5-4. 使用方法

センサーを使って、ライブカメラから携帯電話に自動的に電話をかける（自動発呼機能）

市販のセンサーまたはスイッチと組み合わせて使用することにより、センサーのON（OFF）を感知して、指定した電話番号へ自動的に電話をかけるよう設定できます。



[例] ドアが開くと電話がかかる

参考

- センサーやスイッチの接続/使用方法については、「センサー入出力コネクタについて」（p.26）および使用するセンサーやスイッチの取扱説明書を参照してください。

設定方法

1 携帯電話の電話番号を登録します。

- (1) 自動的に電話をかけたい携帯電話からカードタイプFOMAに「テレビ電話」をかけます。（「テレビ電話」は通常の「音声通話」と、かけ方が異なります。）

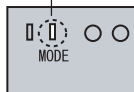


- (2) 通信中（映像表示中）に （SETボタン）を3秒以上押します。



- (3) （MODEランプ）が3秒間オレンジ色に変わり、通信中の番号が電話をかける先の番号として登録されます。その後、電話を切ります。

オレンジ色



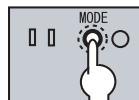
注意点

- 電話番号は1件のみ登録できます。新しい電話番号を登録するときは、上記(1)～(2)を繰り返して上書きします。

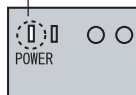
2 自動発呼機能を有効にします。

初期設定（工場出荷状態）では、本機能は無効になっています。 [ POWER]
（POWERランプ）の色：オレンジ色]

- (1) センサーを、自動発呼時と逆の状態にしておきます。（例：センサーがONになったとき、発呼させたい場合は、センサーをOFFにしておく。）
- (2) ライブカメラが待受状態のときに、（MODEボタン）を押します。
- (3) （POWERランプ）が緑色に変わり、本機能が有効になります。



緑色



注意点

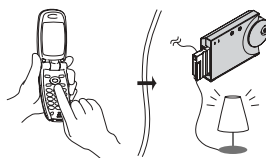
- 機能を無効にするには、上記(2)～(3)を繰り返します。機能を無効にしても登録した発呼先の電話番号は削除されません。

参考

- 連続して発呼することはできません。次の発呼まで1分以上間隔が必要です。
- ライブカメラから携帯電話に電話をかけたとき、通話中や圏外などの理由で相手と通信できなかった場合は、3分おきに10回まで自動的にリダイヤルされます。

携帯電話から、ライブカメラに接続したセンサー入力対応外部機器のオン/オフを切り替える

センサー入力対応外部機器（例：センサー入力対応ライト）をライブカメラに接続すると、携帯電話から外部機器のオン/オフを切り替えることができます。



参考

- センサー入力対応外部機器の接続/使用方法については、「センサー入出力コネクタについて」（p.26）および使用するセンサー入力対応外部機器の取扱説明書を参照してください。

操作方法

＜携帯電話がDTMF送信機能を搭載している場合＞

（DTMF送信機能については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。）

通信（映像表示）中に、携帯電話のダイヤルボタン（下表参照）を組み合わせさせて押し、DTMF送信することで外部機器のオン/オフを切り替えることができます。

＜携帯電話がDTMF送信機能を搭載していない場合＞

通信（映像表示）中に、携帯電話のダイヤルボタン（下表参照）を直接押すことで外部機器のオン/オフを切り替えることができます。

注意点

- DTMF送信機能を搭載していない場合、携帯電話側で以下の設定をしておいてください。（各設定方法については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。）
 - ー ハンズフリー（スピーカーから音声を聞く）に設定してください。
 - ー ボタン確認音（ボタンを押したときの音）が鳴るように設定してください。
- 携帯電話またはライブカメラの周辺が騒がしい場合、設定が変更できないことがあります。

センサー入力対応外部機器の設定	ダイヤルボタンの組み合わせ
開放	#12
短絡	#11

短絡に設定した状態で通信（映像表示）を終了した場合、通信が終了してから1分後に自動的に開放になります。

設定確認音について

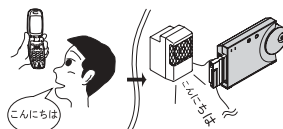
携帯電話からおこなった設定結果を音で確認することができます。

設定の変更にDTMF送信機能を使用している場合は、携帯電話をハンズフリー設定にしておいてください。

- ライブカメラの設定が完了すると、「ピーー」という音がします。
- ライブカメラの設定が変更できなかった場合は、「ピーピー」という音がするので、再度設定してください。

ライブカメラ側で携帯電話からの音声を出力する

市販のアンプ内蔵スピーカーをライブカメラのオーディオミニジャックに接続すると、スピーカー（ライブカメラ側）で携帯電話からの音声を出力することができます。



参考

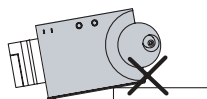
- スピーカーの接続/使用方法については、使用するスピーカーの取扱説明書を参照してください。

6. 設置

ライブカメラ本体の設置

注意点

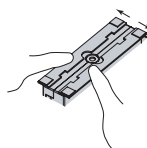
- ライブカメラが左右方向に傾かないように設置してください。画像が傾いたり、カードタイプFOMAが落下することがあります。



台などに置く場合

スライドスタンドを開いて設置します。

底面



スタンドや三脚を取り付ける場合

スタンドや三脚の取扱説明書を参照して、ライブカメラ底面のスタンド取付穴に取り付けてください。

レンズの向きの設定

背面のレバーを使って、レンズの向きを上下に調整してください。

背面



7. 故障かなと思ったら

症状に対する処置をおこなっても解消されない場合は、販売店またはエイゾーサポートにご相談ください。

症状	チェックポイント/対処方法
1. ライブカメラと通信できない	☐ 携帯電話から「テレビ電話」をかけていますか。（「テレビ電話」のかけかたについては携帯電話の取扱説明書を参照してください。） ☐ ライブカメラの着信設定が「着信制限モード」（p.18）の場合、下記の点を確認してください。 — 携帯電話から発信者番号通知設定を「通知設定」にして電話をかけていますか。「非通知設定」で電話をかけていると通信できません。（p.19） ☐ 他の人が通信中ではありませんか。 ☐ ライブカメラのある場所が、携帯電話のサービスエリア外、または電波の届かない場所ではありませんか。 ☐ カードタイプFOMAがPCカードスロットに正しく挿入されていますか。（p.17）
2. ライブカメラが待受状態にならない	☐ 本製品に対応しているカードタイプFOMAを使用していますか。（p.9） ☐ ACアダプタを電源コンセントから抜き、もう一度接続してみてください。 ☐ 下記の手順でライブカメラの設定を初期設定に戻し、電源を入れなおす必要があります。（初期設定に戻した場合、保存されていたすべての情報（電話番号など）が消去されます。） 1. （MODEボタン）と（SETボタン）を同時に3秒以上押します。 2. （POWERランプ）が赤色点滅、（MODEランプ）が消灯となります。 3. いったんライブカメラのACアダプタを電源コンセントから外した後、再度ACアダプタを電源コンセントに接続します。
—  （POWERランプ）が赤色に点滅し、  （MODEランプ）が消灯している場合 —  （POWERランプ）と  （MODEランプ）が赤色に点滅している場合	

症状	チェックポイント/対処方法
3.携帯電話からライブカメラの設定が変更できない	☐ 携帯電話がDTMF送信機能を搭載していますか。(p.22) ☐ 携帯電話がDTMF送信機能を搭載していない場合 (p.22)、下記の点を確認してください。 — 携帯電話がハンズフリー設定になっていませんか。 — 携帯電話のボタン確認音 (ボタンを押したときの音) が鳴るように設定されていますか。 ☐ 携帯電話またはライブカメラの周辺が騒がしい場合、設定が変更できないことがあります。
4.画像がぼやけている	☐ ライブカメラのレンズが汚れていませんか。(p.35) ☐ ライブカメラが被写体から10 cm以上離れていますか。(p.36)
5.画像にノイズが入る	☐ ライブカメラの周辺が暗い場合、画像にノイズが入ることがあります。 ☐ ライブカメラまたは携帯電話のある場所の電波状況が悪い場合、画像にノイズが入ることがあります。 ☐ 移動中に携帯電話を使用している場合、画像にノイズが入ることがあります。

8. お手入れ

本製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをおすすめします。

ライブカメラの外側

- 柔らかい布をご使用ください。

ライブカメラのレンズ

- 柔らかい布や、メガネ拭きなどをご使用ください。

9. 仕様

映像	カメラ	単焦点レンズ一体型1/7インチCMOSイメージセンサ フォーカス範囲：10cm～∞ 水平画角：52°
	画像伝送速度	最大15フレーム/秒
	画像解像度	QCIF（縦176×横144ピクセル）
音声	マイク入力	有 モノラル
	マイクユニット	無指向性エレクトレットコンデンサマイクロフォン
通信	動画像通信	64kbpsまたは32kbps/3G-324M準拠
電源		AC100V±10%、50/60Hz
インターフェイス		PCカードスロット オーディオミニジャック（モノラル出力） 外部I/O（センサー入出力）
消費電力（AC）		最大：11W 待受時：3W
寸法（本体）		154.5mm（幅）×93mm（高さ）×30mm（奥行き） （突起部含まず）
重量（本体）		約195g
環境条件		動作温度範囲：5°C～35°C、 輸送および保存温度範囲：-20°C～60°C、 相対湿度範囲：30%～80% R.H.（非結露状態）
スタンド取付穴		1/4-20 UNC、深さ：6mm（最大）
適合規格		TÜV/S、VCCI クラスB

主な初期設定（工場出荷設定） 値

着信設定	着信制限モード
自動発呼機能	無効
電話番号登録	なし

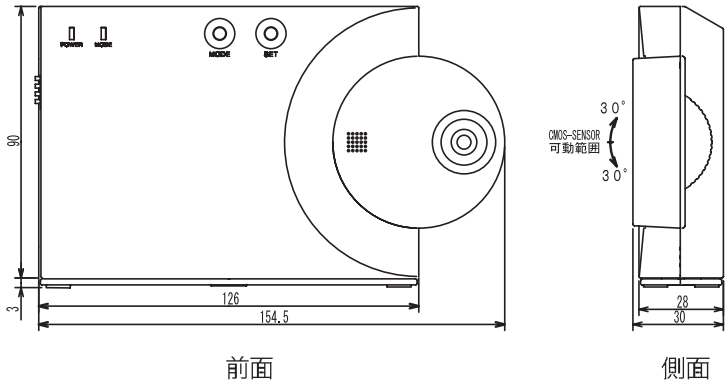
POWERランプ・MODEランプのみかた

各ランプの状態によって、ライブカメラの状態を判別できます。

	赤色点滅	赤色点灯	緑色点灯	オレンジ色点灯
 (POWERランプ)	ライブカメラエラー	---	自動発呼機能オン	自動発呼機能オフ
 (MODEランプ)	ライブカメラエラー	通信中	待受状態 着信制限モード	待受状態 着信非制限モード

外観寸法

単位：mm



10. アフターサービス

本製品のアフターサービスに関してご不明な場合は、下記のエイゾーサポートにお問い合わせください。

エイゾーサポート

〒924-8566 石川県松任市下柏野町153番地

TEL 076-274-6260

FAX 076-274-2416

※ 営業時間/月曜日～金曜日（祝祭日及び弊社休日をのぞく）10:00～17:00

保証書・保証期間について

- この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げの販売店でお渡ししますので、所定事項の記入、販売店の捺印の有無、および記載内容をご確認ください。なお、保証書は再発行致しませんので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
- 当社では、この製品の補修用部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造終了後、最低5年間保有しています。補修用部品の最低保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、エイゾーサポートにご相談ください。

修理を依頼されるとき

- 保証期間中の場合
保証書の規定にしたがい、エイゾーサポートにて修理をさせていただきます。お買い求めの販売店、またはエイゾーサポートにご連絡ください。
- 保証期間を過ぎている場合
お買い求めの販売店、またはエイゾーサポートにご相談ください。修理範囲（サービス内容）、修理費用の目安、修理期間、修理手続きなどを説明いたします。

修理を依頼される場合にお知らせいただきたい内容

- お名前・ご連絡先の住所・電話番号/FAX番号
- お買い上げ年月日・販売店名
- モデル名・製造番号（製造番号は、本体の背面部のラベル上に表示されている8けたの番号です。例）S/N 12345678）
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）

廃棄およびリサイクルについて

- 本製品の電子部品、プリント基板、金属部品等には重金属（鉛、クロム、水銀、アンチモン）、フッ素、ホウ素、シアン、ヒ素などが含まれています。ご使用後は、回収・リサイクルにお出してください。
- 本製品は、法人ユーザー様が使用後産業廃棄物として廃棄される場合、有償でお引取りいたします。詳細についてはエイゾークイックコールセンターまでお問い合わせください。

[エイゾークイックコールセンター]

- 電話での問合せ受付
TEL 076-274-2474
月曜日～金曜日（祝祭日及び弊社休日をのぞく）
10：00～17：00
- FAXでの問合せ受付
FAX 076-274-2416 24時間
但し、センターからのご回答は同センター営業時間帯（電話受付時間帯と同じ）

■製品に関するお問い合わせ先

EIZOコンタクトセンター **0120-956-812**

受付時間：月～金 9：30～18：00（祝祭日、弊社休業日を除く）



株式会社ナナオ

〒924-8533 石川県松任市福留町655番地

TEL (076)277-1074 FAX (076)277-3914

<http://www.eizo.co.jp/>



環境保護のため、再生紙を使用しています。

初版 2004年1月 Printed in Japan.

05D22718A2
(UC-101D-JA)